

きらめき

坂城町女性団体連絡会だより 第46号

発行 坂城町女性団体連絡会
編集 女団連だより編集委員会



『誰でも、どこでも、自分らしく』



会長 山崎 美代子

女性団体連絡会は、町内10女性団体で構成され、女性の活躍を通じて「健康で明るい町づくり」を目指しています。

今年の『男女共同参画週間』での内閣府のキャッチフレーズの『誰でも、どこでも、自分らしく』は、まさに私たちが目指す社会の姿と重なっており、日ごろから私たちは「職場」「地域」「家庭」の垣根を越え、誰もが個性と能力を充分に発揮できる社会の実現に向け、様々な取り組みを行っています。今年度も活動の一つとして、11月に、さかき男女共同みんなの会の皆さんと共に「女と男ふれあいさかき2025」を開催します。

今回は、NHKの「ためしてガッテン」の番組制作に携わった北折一さんを講師にお招きして、地域での社会参加や健康に関する内容の講演会が開催できるよう、準備を進めています。堅苦しい講演会ではありませんので、多くの方のご参加をお待ちしております。

理事の皆様などのご指導をいただきながら、会長として精一杯努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

活動報告

「長野県男女共同参画センター あいとびあ フォーラムに参加して」

師田 智恵子

「身の回りにあるジェンダー格差を見直し、誰もが住みやすい地域を考えてみませんか？」6月28日に開かれた、講演会のサブタイトルです。私たちは、坂城町隣保館にて、オンライン配信で受講しました。講師はテレビ等で有名なジャーナリストの浜口敬子さんでした。男女の格差は、地域社会の存続（少子化・人口減など）にも影響があることを統計や具体例をあげ、わかりやすく説明してくださいました。根深い性別役割分業意識の改革を行い「男だから、女だから」といった発想をやめ、女性にはより多くのチャンスや、男性にはプレッシャーからの解放を行うことが重要だと話され、多様性の重視や仲間作りの大切さを説かれました。例年は、フォーラムのみの聴講でしたが、今回は参加者による意見交換を行い、「老若男女関係なく相手を尊敬する」「自立をする」「自分ができることは精一杯行い、できないことは補ってもらい、不得手なことでも無理をしない」「不平等や偏見に気づく柔軟性を持つ」「何もしないでは変わらないから、些細なことでも続けることによって、意識に変化をもたらす」など多くの感想や意見が出され、充実したひと時を過ごしました。このような一人ひとりの努力の



積み重ねが、男女共同参画の推進につながり、町が元気になるのではないかと感じました。一日でした。

「視察研修に参加して」

古畑 さよ子

女性団体連絡会の研修は、7月24日、岡谷・諏訪方面へ、13名が参加しました。暑さ真つ盛り、連日の雷、夕立の心配もありましたが、無事に終了できました。

岡谷蚕糸博物館（シルクファクトおかや）では、館内の「まゆちゃん工房」で、30分のまゆ玉工作として、キーホルダー作りに挑戦し、数人が見本にはない町のマスコットキャラクター「ねずこん」を制作し、出来上がりはさすがでした。次に蚕の一生が一目でわかる養蚕スペースで、四齢で桑を食べているおカイコ様から繭玉まで大切に飼育されていました。懐かしい器具等展示され、また蚕糸業の歴史・製糸機械の変遷などを見て、日本の近代化に大きく貢献してきたことを学びました。印象に残ったのは、全国から集まった女工さんの仕事や生活面の紹介で、映画『あゝ野麦峠』で描かれた「女工哀史」も確かに蚕糸業の歴史の一部ですが、それが全てではなく、女性たち（当時、10代前半から20代が中心）には仕事の合間に読み書き算術、裁縫等の教育が施され、これにより帰郷

後も社会の中で活躍できたということでした。

帰り際に見た旧岡谷市役所（映画『ゴジラー1.0』の撮影に使用）の威厳ある立派な建物に象徴される、当時の隆盛と多くの女性達の汗を感じました。

諏訪市では諏訪大社上社にお参り後、諏訪市博物館で学芸員に上社・下社の成り立ち、御柱祭りと諏訪地方の歴史についての説明を受けました。御神渡りが見られなくなつて久しく、地球温暖化が深く影を落としているのを淋しく感じました。



令和7年度坂城町女性団体連絡会

会長 山崎 美代子
副会長 天田 恵子
三井 由香

農林女性ネットワークさかき
女性専門相談員
保健補導員会
消費者の会
交通安全協会坂城支部女性部
商工会女性部
更生保護女性会
婦人消防隊
日赤奉仕団
農村生活マイスター